

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 フィリピンナガイサ

1 事業の趣旨・目的

自立と協働・共創・互学互修

① 初級学習者に対して日本語学習を後押しする。

日本社会へ踏み出す勇気を持たず、日本語学習の機会を自ら狭めている者が、生活に必要な情報や日本語を母語で迅速に習得し、生活の幅を広げられる助けとして、日本語教室を設置する。

② バイリンガル講師による教室運営能力を高める

日本語能力の高いフィリピン人をバイリンガル講師として育成、確保をすることで、教室運営の質を高め、裾野を広げる。

在住フィリピン人の来日・生活背景が多様化し、授業の合間に受ける相談内容も複雑化してきた。よって講師は日本語能力が高く、相談業務もこなせる人材が求められている。滞在年数が長く、会話能力の高い者は多いが、実際には識字、読解能力が乏しいケースも少なくない。

誰もが当クラスで講師になれるのではなく、ひとつの線引きとして、日本語能力検定試験N3を持っていること、もしくは文化庁事業「バイリンガル教師養成講座(主催:浜松国際交流協会)」の修了生を講師の条件とする。また講師担当後はN2を受験することを条件とする。

③ 近隣の日本人をはじめとする住民の生涯学習として

学習者が教室外においても実践的に生活を送れるよう、学習者から自発的な会話を引き出すことが求められる。地域住民は初級学習者と接し、易しい日本語(ゆっくり話す・短い文章で話すなど)を使う配慮や工夫を通して、外国人とともにつくる暮らしやすい地域づくりを考える機会となる。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月11日 10:00 ~ 12:00	第一伊藤ビル3階 会議室	野々山勇氏 津村公博氏 山屋宏氏 澤田直子氏 山下文彦氏 吉山則幸氏	昨年度の成果、報告 をもとに今年度のカリ キュラムについて	事業趣旨説明、委員長・副 委員長の選出、委員紹介、 昨年度の成果、報告、今年 度のカリキュラムについて

10月26日 10:00 ~ 12:00	第一伊藤ビル3階 会議室	野々山勇氏 澤田直子氏 山下文彦氏 吉山則幸氏	浜北クラスの学習者の特色から、日本語教室と生活情報の提供・相談は切り離せない。	浜北クラスの成果と浜松クラスのカリキュラムの予定
3月10日 10:00 ~ 12:00	第一伊藤ビル3階 会議室	清ルミ氏 野々山勇氏 津村公博氏 山屋宏氏 澤田直子氏 山下文彦氏 吉山則幸氏	学習者からさまざまにニーズが高まってきた中で、改めて教室設置当初の目的を見直す。そして日本語教育と、これまでの生活相談を受けてきた中でのノウハウ、バイリンガル講師の特性を活かした教室づくりをしていく。バイリンガル講師は日本語能力の高さばかりではなく、講師としての技量を上げていく必要を再確認した。	浜松クラスと浜北クラスの特徴、すみわけ。／バイリンガル講師の役割と目指すところ／今年度の成果と課題をもとにして次年度の計画について意見交換

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 講座名

バヤニハン日本語教室～みんなで地域をつくっていこう～

② 開催場所

浜北文化センター、なゆた浜北、南部公民館、福祉交流センター

③ 学習目標

- ・ 入門、初級者を対象とする。この教室は限られた時間だが、母語が通じる強みを活かして生活に必要な日本語を学ぶ。
- ・ 生活する上で日本人とコミュニケーションは必要、そのためには日本語が必要という観点から、継続した日本語学習を促すための動機付けとなるカリキュラムを作成する。
- ・ 講師は日本語能力の高さだけではなく、講師としての自己研鑽をし、教室コーディネート能力を高める

④ 使用した教材・リソース

この教室に通う学習者のために作成された講師による自作プリントと教材、会話の臨場感あふれる教材として地域の日本人ボランティア、ゲストなど。

⑤ 受講者の募集方法

HICE NEWSにて(公益法人浜松国際交流協会発行)

⑥ 受講者の総数 89 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 フィリピン国 79人, 日本国 10人)

⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 20 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
浜北1	6月18日 13:30~16:30	3時間	11	フィリピン国・タガログ語9人 日本国・日本語2人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	自己紹介 講師自作プリント、教材
浜北2	7月1日 13:30~16:30	3時間	15	フィリピン国・タガログ語13人 日本国・日本語2人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	電話をかける 講師自作プリント、教材

浜北3	7月15日 13:30~16:30	3時間	16	フィリピン国・タガログ語16人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	電話をかける講師自作プリント、教材
浜北4	8月19日 13:30~16:30	3時間	15	フィリピン国・タガログ語12人 日本国・日本語3人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	119番通報練習／デモ電話機、消防署員
浜北5	9月2日 13:30~16:30	3時間	16	フィリピン国・タガログ語13人 日本国・日本語3人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	ハローワークガイダンス／ハローワーク持参資料、アンケート
浜北6	9月16日 13:30~16:30	3時間	11	フィリピン国・タガログ語9人 日本国・日本語2人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	国民健康保険／長寿保険課持参資料
浜北7	9月30日 13:30~16:30	3時間	7	フィリピン国・タガログ語4人 日本国・日本語3人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	工場によく使う言葉／講師自作プリント
浜北8	10月1日 13:30~16:30	3時間	13	フィリピン国・タガログ語12人 日本国・日本語1人	教授者2人 ／コーディネーター1人 ／単純労働者1人	診察室での会話／講師自作プリント、教材
浜北9	10月15日 13:30~16:30	3時間	10	フィリピン国・タガログ語8人 日本国・日本語2人	教授者2人 ／コーディネーター1人	交通安全ガイダンス／講師自作プリント、教材
浜北	10月29日 13:30~16:30	3時間	7	フィリピン国・タガログ語5人	教授者2人 ／コーディネーター1人	日本料理体験／料理教材、レ

10				日本国・日本語 2人	ネーター 1人	シピ
浜松 1	11月5日 13:30~16:30	3時間	12	フィリピン国・タガログ語 10人 日本国・日本語 2人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	自己紹介 講師自作プリント、教材
浜松 2	11月19日 13:30~16:30	3時間	3	フィリピン国・タガログ語 2人 日本国・日本語 1人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	電話をかける ／講師自作プリント、教材
浜松 3	12月3日 13:30~16:30	3時間	3	フィリピン国・タガログ語 3人 日本国・日本語 0人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	日本の学校システムと行事を知る ／講師自作プリント、教材
浜松 4	12月17日 10:30~13:30	3時間	36	フィリピン国・タガログ語 30人 日本国・日本語 6人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	交流会 ／講師自作教材、パワーポイント
浜松 5	1月7日 13:30~16:30	3時間	15	フィリピン国・タガログ語 14人 日本国・日本語 1人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	ハローワークによるガイダンス ／アンケート、ハローワーク持参資料
浜松 6	1月21日 13:30~16:30	3時間	14	フィリピン国・タガログ語 12人 日本国・日本語 2人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	企業の方の講話と生活漢字 ／講師自作プリント
浜松 7	2月4日 13:30~16:30	3時間	9	フィリピン国・タガログ語 7人 日本国・日本語 2人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	体の部位 ／昨年度使用した内容と教材等を参考に
浜松 8	2月18日 13:30~16:30	3時間	5	フィリピン国・タガログ語 4人 日本国・日本語 1人	教授者 2人 ／コーディネーター 1人	診察室での頻出表現 ／昨年度使用した内容と教材等を

						参考に
浜 松 9	3月3日 13:30~16:30	3時 間	13	フィリピン国・タガログ語10人 日本国・日本語3人	教授者2人 ／コーディネーター1人	日本文化体験 ／書道
浜 松 10	3月17日 13:30~16:30	3時 間	8	フィリピン国・タガログ語8人	教授者2人 ／コーディネーター1人	修了式、これまでのふりかえり

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



学習者に共通する住所の途中までをクラスで共有した。漢字で自宅住所を書きたいという要望が高かったが教室内でマスターするのがむずかしい学習者もいた。そのことから、浜北クラスでは拡大した漢字に書き順を入れて、自宅学習にも使えるよう教材を工夫した。浜松クラスでは、日本人ボランティアさんが手伝いながら授業の中でコンパクトに、毎回継続して取りいれるようにした。



「将来設計を立てていますか」というハローワークによるガイダンス。日本語を学ぶこと、仕事を探す前に「帰国の意思はあるか」「子どもの教育はフィリピンがいいか、日本がいいか」具体的な例を示しながら、お話を聞かせてくださった。そういったプランが日本語学習の必要につながるというものだった。



企業に勤めるフィリピン人2名と運営委員の山屋さんがお話を聞かせてくださった。実際に企業で勤めているフィリピン人はロールモデルとして、バイリンガル講師と同じ役割を持っているともいえる。まずは同じコミュニティの中でも意見・情報交換を活発に行い、それを日本社会への接点に広げていくことの大切さを学ぶことができた。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

・八重田アナベル(バイリンガル講師)日本語能力検定試験N2合格

② 学習者の習得状況

浜北クラスの学習者は自分の名前をカタカナで書けない人もいた。けれども学習意欲はとても高い。在住フィリピン人が集住している地区でもあるため、クチコミによる集団の参加が目立つ。家族、親戚、同じ会社に勤めているなど日ごろも共に生活をしているので、授業以外の日も集まって日本語を学びあっているようだ。今までこうした場がなく、自力で学習するきっかけとなる教材、やり方さえもわからなかったようだが、教室に参加するようになってからは教室の外でも日本語を学ぶことに結びついた。

浜松クラスは滞在年数が長い学習者も増えてきた。とくに主婦については学びたいけれども生活自体は今持っている日本語力で対応しきれている場合がある。そこから先、自己研鑽するかどうかは本人によるところが大きい。また、呼び寄せの青年たちは大人とはまた違い、実生活において日本社会への適応が求められる場面が多い。学習者の生活背景の混在から、カリキュラムを統一して組むのは難しい面があり、限られた時間で効果的な学習につなげるための工夫がそれぞれに必要であった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

浜北教室では、日本語学習をすること自体が初めてという学習者が多かった。浜北クラスでは学習者のために作成された講師による自作教材が学習者の財産となり、学習意欲を引き出した。浜北は日系フィリピン人の集住エリアで、仕事と家庭の往復で日本語学習の必要を感じていないか、時間がとれないケースが目立つ。地理的に学習者が浜松駅周辺まで出てくるのは時間的にも金銭的にも困難だが、学習者の集住地区近くで教室開催したことは運営側としてもフィリピンコミュニティにおける新たな課題を発見し、次につなげていく必要性を感じた。この教室では当事者である運営側が自発的に課題を発見し、当事者である学習者に呼びかけ、日本社会に協力を求め、発信していくことができる。こういった一連の流れが自立の後押しにつながることを考えると大きな成果が得られた。

③ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回はこれまで日本語教育に携わったことがないボランティアさんも数名いた。日本語教育という視点ではなく、同じ地域の構成員として教室づくりに参加していただけたことは、とても有意義であった。また、日本人ばかりでなく同じコミュニティ内にも知らないけれど活躍しているフィリピン人がたくさんいることがわかった(浜松第6回目)。コミュニティの中で手本となる人の話を聞いて内発的な教室づくりをしていくことが、運営側、学習者側、当事者間の自覚を引き出す。そして日本社会であるボランティア、企業、行政等へ広げることは、フィリピン人だけのためでは

なく、地域ぐるみの連携に発展していく。学習者にとっても、連携のとれた社会の中では、自らの力でやれることが増える。本事業の回を重ねるごとにそういった学びを得て、展望が開けてきた。

④ 改善点、今後の課題について

a. 現状

当地域に在住するフィリピン人で、日本語教室に通う者は、三つに大別される。

一つめは日本人配偶者と結婚した女性である。彼女たちは、前の夫との間に生まれた子どもをフィリピンに残して来日している場合が多い。日本に定住することを考え、日本語の必要性を感じているが、家事や仕事の疲れから、日本語教室を休んでしまうことや、仕事の時間と重なり日本語を継続的に学ぶことが難しい。

二つめは、かつて日本人配偶者と結婚した主婦が、その次の世代である子どもを呼び寄せる(前の夫との間に生まれた子どもや日本人男性の認知により来日する)ケースである。こうして来日した学齢期の子どもを抱える母親は、「学校から配られるプリントが読めない」「小児科に子どもを連れて行ったが、問診表が書けない」といったことで苦労している。本当は「子どものことは自力で行いたい」という切実な願いを持っており、こうした母親は会話よりも「文字」で苦労していることが多い。それは、滞在年数が長い者ほど深刻な悩みとなっており、日常会話がある程度できてしまうが故に識字は見過ごしてきてしまったという事例である。

一方、学齢期を超えている青少年たちについては日本語力が乏しく、日本の習慣・文化が身につけていないため、進学やアルバイトができないケースが目立つ。そのため日本語の習得は急務であるが、現実的には両親が働いている間、留守番をしながら弟や妹の面倒を見ざるをえない者や、継続して日本語教室に通う交通費が工面できないことが見受けられる。

三つめは、先祖が日本にルーツを持つ日系2世・3世の存在である。家族全員が日系人であり、そのほとんどが日本語に不自由を感じている例も少なくない。彼らは親戚一同が近所に集まって暮らしており、その中で滞在年数が長い者や、かろうじて日本語が出来る人に頼るなど、身を寄せ合って生活している。製造業の盛んな当地域の特徴として、日系フィリピン人は職場である工場近くの集住が目立つ。それは、浜北や天竜、細江といった地域で、浜松駅中心部に出てくるには時間もお金も要するエリアである。そして、そこで働く者の多くは雇用期間も勤務時間も不安定であるため、自身の生活に不満を抱いている。こうした環境を脱し、仕事の幅を広げ、生活の質を向上するためには、日本語学習の必要性を自覚しているのだが、現状は日々の生活を送ることに精一杯であり、安定した学習環境を維持できない。

b. 今後の課題

上記のような当地域の状況と昨年度の経過観察をあわせて考慮した結果、私たちフィリピンナガイサでは当教室における3つの課題を見出した。

一つめは、継続した学習に結びつきにくい環境を持つ在住フィリピン人に対して、いかに有

効な学びの場を提供できるかということ。

二つめは、在住フィリピン人の生活背景の変化や相談件数の増加への対応のため、日本語能力を有するフィリピン人(バイリンガル講師)の育成と新たな人材発掘が急務であること。かつて、フィリピン人女性の来日が目立ったが、今では子どもや男性も多く、「家族単位」でのサポートを求める声も少なくない。複雑化している内容の相談を受けるには、単に日本語能力の高さだけでなく、相談員としての器量も必須であるが、こうした人材は相談件数に対して多いとは言えない。

三つめは、日本語がわからないという理由で在住フィリピン人が地域で孤立しないこと、また当事者だけで問題を抱え込まないことである。そのために、一人でも多くの地域に住む日本人の理解・協力を得ることが必要であり、その裾野はまだまだ広げられる見込みがある。

c. 今後の活動予定, 展望

バイリンガル講師は日本人と円滑なコミュニケーションを取ることの出来る日本語力を持っており、母国の生活習慣や同国出身者の考え、文化を伝える指導者にもなり得る。その点で日本社会・日本人と在住外国人の架け橋となることが出来る。また、元来明るくて社交的であり、おもてなしの上手なフィリピン人が運営する日本語教室は、近隣との関係が少なくなってきた日本人にとっても、地域とつながりを持つための発信基地となり得る。私たちは、私たちの持っているルーツと特色を生かし、活動の質を高め、地域構成の一員として地域に還元していきたいと考えている。

④ その他参考資料

アンケート（学習者用）バヤニハン浜北教室 10月29日

回答者数：7名

① このクラスを何で知りましたか。

友人の紹介 4名

② いちばん良かった授業はなんですか？ ○をつけてください。(いくつでもOK)

自己紹介 6名 / ひらがな 7名 / カタカナ 5名 / 漢字 4名 / 電話のかけ

かた 6名 / ハローワークによるガイダンス 5名 / 浜北区長寿保険課によるガイ

ダンス 4名 / 丁寧語「～ます」 3名 / 体の部位を覚える 6名 / 症状を医師

い しんりょうか なまえ ～ か
に言う 4名／ 診療科の名前をおぼえる「～科」 5名／ 今までのまとめ 6名／

こうりゅうかい
クッキング・交流会 6名／日本人とのおしゃべりタイム 4名

③ ②について、なぜ、それが良かったと思いますか？

- ・自分が知らないことがわかり、正しい日本語の勉強になったから
- ・選んだ項目は全て知りたいことだから。もっと勉強したいこと。
- ・全て必要なことだから。
- ・全部大事なこと。
- ・全部勉強したいから。
- ・病院で使う言葉がためになった。たくさん勉強になった。

こんご おな にほんごきょうしつ と あ なん
④ 今後、同じように日本語教室があったら、取り上げてほしいテーマは何ですか？

じょうきいがい
(上記以外で)

- ・会話の勉強をしたい。
- ・正しい言葉づかい
- ・日本の料理について詳しく。
- ・病院の内容がとてもよかったので、もっと取り上げてほしい。

⑤ 日本人のボランティアさんが隣に座るレイアウトや「おしゃべりタイム」は、
どうでしたか？感想を聞かせてください。

- ・みんなやさしい。フィリピン人についてよく理解しようとしてくれる。
- ・みんなやさしかった。
- ・よかった。日本人ボランティアさんと一緒に楽しめた。
- ・大丈夫。
- ・みんなやさしい。一生懸命に教えてくれる。わかりやすい日本語で通訳もしてくれ
た。
- ・楽しかった。いろいろな人とお話できてうれしかった。

じゅぎょう
⑥ 授業内容について

よ てん
○良かった点

- ・楽しい授業。先生がやさしい。
- ・授業が楽しかった。

- ・笑顔で教えてくれる。先生たちも楽しんでいる。
- ・先生が元気で楽しい。
- ・楽しい。
- ・笑顔で教えてくれる。楽しい。

○改善したほうがよいと思^{てん}う点

- ・もっと他の学習者に知らせてほしい。(よい教室なので)
- ・改善点無。十分良い。
- ・無。

⑦ フィリピン^{ようぼう}ナガイサに要望はありますか？

- ・この教室をもっと続けてほしい。
- ・10回だけでなく、もっと回数を増やしてほしい。10回だと短い。
- ・もっと日本語教室を行ってほしい。
- ・もっとクラスをやってほしい。
- ・日本語教室をもっと広げてほしい。

⑧ 差し支えなければ、在留資格 (VISA の種類) を教えてください。

- ・長期滞在ビザ 6名
- ・永住ビザ 1名

ご協力ありがとうございました。Salamat Po.